

講義名	メディア論			授業形態	
担当教員	桑原 桃音	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

主題：メディアの歴史、メディアの現状、メディアの文化についての概要を知る

概要
 ・メディア論とは何かを知り、メディア産業の構造とその変化の輪郭をつかむ、19世紀後半以降のメディアの歴史から、現代のメディア環境の革新と多様化についてたどることで、メディア論の基礎的な知識、視点、理論を知る。メディアがいかに関社会を切り取るのかを検討し、考察するために、ジャーナリズムの実践とメディアの表裏についてみていく。さらに、メディアを資料として社会意識や社会問題を検討し、考察する。

・この授業では、授業の理解のためにレジュメだけでなく、補足資料、パワーポイント、ワークシートを用いて講義を行う。理解を深めるために、現代メディアの分析、新聞記事の要約と意見の提示、映像資料の視聴、グループワークを行う。

到達目標

- (1)メディア論の基礎的な考え方、方法、理論、メディアが社会や個人に及ぼす影響について理解し、説明することができる。
- (2)メディアによる社会変化の可能性、同時に現代社会におけるメディアの現状や問題について理解し、説明することができる。
- (3)マス・メディア、インターネットによってメディアの可能性や発信方法が広がるなか、表現の自由、報道の自由を守りながら、メディアを通して広がる差別、偏見、社会問題をなくしていく意義を理解し、その理解のために必要な知識を得て、問題を解決するために何が必要かを考え、提案することができる。
- (4)上記の能力を用いて、メディアによって社会現象をとらえる重要性を知り、同時に、メディアによってつづられる自明性を問いなおすことができ、その視点でメディアを資料として、問題を検討し、考察することができる。

提出課題

- ・毎回授業時に作成したワークシート、クリッカー（Respon等）による課題を提出してもらい、毎回の課題は300～800字程度の字数を要する。
- ・クリッカーは授業内で情報共有するので個人情報や露見しない内容にとどめること。
- ・グループディスカッションを行うこともあるが、内容によってはICT等を活用した双方向ディスカッションなどを課す。たとえば、他の受講生のクリッカー内容を共有し、それらの内容について議論にかなげること。
- ・不定期に特別課題、小テストを課す。また学びを深め、評価を上げたい学生のために発展課題を課す。
- ・授業内でレポートを課す（授業の進度や受講生の様子を見て中間テストに切り替える場合もある）。レポートの未提出によって点数が下がり、単位が認定されない場合があるので注意すること。
- ・レポートの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは書けないので注意すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業課題の講評、質問については、次回もしくは次々回の授業時に学生へ伝える。授業課題の講評内容を参考として最終レポートに活かしてもらう。

評価の基準

- ・平常点45%（講義内の課題やワークシート）
 - ・レポート・試験55%（レポート、授業内テスト等）
- 20分以上の遅刻は欠席扱い、
 居眠り、私語、指示のないスマートフォン等の電子機器の利用はいずれも欠席扱い、
 欠席が5回以上になったら単位不認定とする。同様に毎回の課題の未提出が5回以上になった場合も単位不認定となる。
 次の行為は判明した時点で単位不認定。
 課題やレポート内容にインターネットからの盗作・剽窃があった場合、
 他学生の課題、クリッカー、レポートをコピーして提出した場合（この場合はコピーしたものを/させたものどちらも不認定）、
 ・、ともに部分的な盗作、剽窃、他学生の課題内容のコピー&ペーストでも単位不認定。

履修にあたっての注意・助言他

- ・毎回の課題に頑張って取り組むこと。
- ・課題の提出、クリッカーの入力を積極的に行うことが評価につながる。課題の未提出が評価にひびくので注意すること。
- ・文字数が少ない、授業内容をまったく理解できていない、あきらかに指示した資料を確認していない、いい加減な課題は0点
- ・何らかの理由で提出ができない場合は、信ぴょう性書類を用意して必ず締め切り前に教員に連絡をすること。連絡がない場合は受け取らない。
- ・教室内で他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為（私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退席など）をする者はその日は欠席扱いとし、退席を指示することがある。
- ・各課題、各レポートで盗作・剽窃したもの、それまでの課題点がどれだけよくても、発覚した時点で単位不認定とする。

教科書

・使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

・よくわかるメディア・スタディーズ【第2版】	伊藤 守 編著	ミネルヴァ書房	2750	9784623072644
・基礎ゼミ メディアスタディーズ	石田佐恵子・阿井崇之編	世界思想社	2090	9784790717416
・ジャーナリズムの道徳的ジレンマ	畑仲哲雄	勁草書房	2530	9784326603077

その他

- ・講義時に資料とレジュメを配布する。キャンパスクロスを介して配布する。
- ・参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション&メディア論（1）メディアとは
 予習内容：シラバスをよく読み特に興味を持った授業回の内容に関する新聞記事、Webマガジン、ニュース動画、論文等一つ一つ確認してこること（2時間）。
 復習内容：出題された課題を解き、講義資料を見たらうで講義ノート整理・復習すること（2時間）。
- 第2回 メディア社会の構造
 予習・復習については 1
- 第3回 メディアと表象（1）ジェンダー批評
 予習・復習については 1
- 第4回 メディアと表象（2）雑誌表紙を事例に
 予習・復習については 1
- 第5回 レポートについての説明、メディアから読み解く社会意識：雑誌表紙分析を事例に
 予習内容：キャンパスクロス等で配布された雑誌分析の説明をよく読み、分析する雑誌の表紙を選定する（2時間）。
 復習内容：出題された課題の雑誌分析を行い、指定されたワークシートを完成させる（2時間）。
- 第6回 確認テスト&現代メディア（1）TVとインターネット
 予習・復習については 1
- 第7回 現代メディア（2）SNSと炎上
 予習・復習については 1
- 第8回 レポートと前半のフィードバック
 予習内容：中間レポートをよく読み、反省点をまとめる。また、5分ほどで中間レポート内容について発表できるよう原稿をまとめる（2時間）。
 復習内容：出題された課題を解き、講義資料を見たらうで講義ノート整理・復習すること（2時間）。
- 第9回 メディアと社会意識（1）メディアの影響への問い
 予習・復習については 1
- 第10回 メディアと社会意識（2）インターネット時代の権力と世論
 予習・復習については 1
- 第11回 ジャーナリズムとは
 予習・復習については 1
- 第12回 確認テスト&後半レポート確認、授業内試験について説明
 予習・復習については 1
- 第13回 ジャーナリズムのジレンマ
 予習・復習については 1
- 第14回 メディアを分析する
 予習・復習については 1
- 第15回 まとめ 後半のフィードバック
 予習内容：キャンパスクロスにアップされた講義資料を見たらうで、わからない言葉、興味を持った内容について調べ、調べて内容について考えたことを述べる（2時間）。
 復習内容：出題された課題をよく読んで、指定された新聞記事を探してくる（2時間）。
- 1.予習内容：キャンパスクロスにアップされた講義資料を見たらうで、わからない言葉、興味を持った内容について調べ、調べて内容について考えたことを述べる（2時間）。復習内容：出題された課題を解き、講義資料を見たらうで講義ノート整理・復習すること（2時間）。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目では、メディアに関する専門的な知識、メディアの存在がいかに社会や個人に影響を及ぼすのか、時事問題やグローバル化とメディアとの関連等を知り、メディアに関わる知識を軸に、現実社会の様々なテーマに取り組み、社会におけるメディアの役割と意義を理解して、考える能力を培うことができる。

また、この科目では、メディアに関わる社会問題を事例として、社会をよりよくするためには、メディアによって媒介される発信者と受信者はどのようにあるべきか、よりよいメディアのあり方のために何が必要かを考え、提案する能力を培う。

また、メディアをめぐる状況がめまぐるしく変わるなかで、「社会人」として必要な情報リテラシーを身につけることができる。

さらに、自分より良い社会に貢献するためにどのようにメディアとどう向きあっていくべきなのかを考える能力も培う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された課題やクリッカーの内容について授業内で講評や解説を行う。
 クリッカーを用いて授業内で意見を提示してもらい、それらについては次回以降にコメントや解説をする。
 受講生の知見や考えを深めるために動画やインターネットを用いる。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

やむを得ない欠席の場合の対応について、必ず教務部指定の欠席届と信ぴょう性書類も提出すること。
 教員から指示があれば指定された締め切りまでに課題を提出すること。